第 1 学 年 算 数 科 学 習 指 導 計 画

1年2組　指導者　岡 本 貴 裕

１５M（５時間）　　が本時

学習活動	子どもの意識
第１次　減加法と減々法の仕方を考える　　9M（３時間）	
学習内容　・減法が用いられる場面を式に表わすこと（知）　・減加法と減々法の仕方（思） ・「10 のまとまりからとる」見方（思）　・減加法と減々法の仕方を見付け出すこと（態）	
□減加法と減々法の図や具体物の操作を比べる（３M）	・ひろこさんの残りの団子の数を求めるよ。ひろこさんは、たかおくんと同じように食べたから、残りは９個だと思うよ。だって、たかおくんは５個食べているから、端から順番に食べていくと残りが９個になったよ。Ａさんは、14 個の４個を先に食べて、残りの 10 個からさらに 1 個食べているよ。Ｂくんは、10 個の団子のまとまりから先に５個食べて、あとで、残った５個と４個を合わせて数えているね。式と答えは同じなのに、食べ方が違っていておもしろいな。そうだね。14－５の計算は、考え方が２つあることがわかったよ。ＡさんもＢくんも、10 個の団子のまとまりから食べているところは似ているね。
□減加法の考え方が容易な場面について考える（３M）	・前の時間に、14－５の考え方が２つあることがわかったよ。今日は、たかおくんの残りの団子の数を求めるのだね。たかおくんが 12 個ある団子から９個食べたのだから、12－９で残りの団子は３個だと思うよ。そうだね、団子を端から順番に食べると残りが３個になるよ。 え、10 個の団子のまとまりから食べた方が簡単だよ。だって、たかおくんの食べた団子の数が多いからね。ブロックを使って説明するよ。まず、12 個ある団子の 10 個のまとまりから９個食べて、残りが１個になるよね。次に、その残った１個と 12 個ある団子の２個を合わせると３個になるから、たかおくんの残りの団子の数が３個であることがわかるよ。食べる数が少ない場合は、端から食べた方がよいのかな。
□減々法の考え方が容易な場面について考える（３M）	・今日は、たかおくんが、11 個ある団子から２個食べたのだね。たかおくんの残りの団子の数はいくつなのかな。11－２で、残りの団子は９個だと思うよ。今日の問題は、たかおくんの食べた団子の数が少ないから、端から食べた方が簡単なのかな。端から食べてみよう。ブロックを使って説明するよ。まず、11 個ある団子の端にある１個を食べるよ。でも、まだあと１個食べないといけないから、10 個の団子のまとまりからあと１個食べたらいいね。そうすると、残りが９個であることがわかるよ。11 個ある団子の端から順番に食べていったのだね。食べた団子の数が少ないから、端から食べていくとすぐに残りの数がわかるよ。これまで学習したように、団子の数によって、食べ方を変えて考えるとよいのだね。
第２次　たしひきセンスゲーム（繰り下がりのあるひき算編）を行う　　6M（２時間）	
学習内容　・減加法と減々法の習熟（知）　・減加法と減々法の仕方（思）　・減加法と減々法の仕方の説明（思） ・減加法と減々法への親しみ（態）	
□たしひきセンスゲーム（繰り下がりのあるひき算編）を行う①（３M）	・これまでやってきた「たしひきセンスゲーム」をするのだね。今回は、「繰り下がりのあるひき算編」と黒板に書いてあるよ。どのようなルールになるのかな。お、11 から 18 までの数が追加されたよ。ひき算の式がたくさんできそうだよ。場に出ている数と、ひき算の答えが同じになるのだったら、手札から２枚出してもよいのだって。よし、

□たしひきセンスゲーム（繰り下がりのあるひき算編）を行う②（３M）	やってみよう。場に５が出ているから、13 と７を出そう。え、Ａさんの出した数は違う気がするよ。いや、合っていると思うよ。みんなで確かめてみようよ。前の時間に使った団子で考えると分かりやすいかもしれないね。あれ、同じように困っているグループが他にもあるよ。他のグループはどのように確かめているのかな。 ・前回の「たしひきセンスゲーム（繰り下がりのあるひき算編）」では、ひき算の答えが合っているかどうか分からないときがあって、困ったね。わたしは、合っているかどうか迷って、手札からカードを出せなかったよ。これでは、「たしひきセンスゲーム」が楽しめないな。合っているかどうか迷ったときは、みんなで確かめ合うといいと思うよ。これまで学習してきたように、団子の図やブロックを使って説明できるからね。「10 のまとまりからとる」方法と端から順番にとる方法の二通りの方法が使えそうだよ。ひかれる数とひく数の大きさによって、どちらの方法が数えやすいか考えよう。これで、みんなが「たしひきセンスゲーム」を楽しめるね。

たしひきセンスゲーム

【概　要】

①１～10 のカードを使用する。（「繰り下がりのある引き算編」では、11～18 のカードも使用する。）
②４人１組で行う。
③１人５枚ずつカードを配り、手札とする。
④山札からカードを１枚引き、表にして山札の横に置く。
⑤手札に次のカードがある場合に、手札からカードを場に出すことができる。
　ア　出ている数字と同じ数字のカード
　イ　たしたときに答えが同じになる２枚のカード
　ウ　ひいたときに答えが同じになる２枚のカード
⑥手札がすべてなくなると勝ちとなる。